



新市立病院の建設計画

新市立病院の建設については、これまで築港地区を建設予定地として計画を進めてきました。現在は一時中断となっていますが、この間も計画の再開を目指し、市民の皆さんや関係者と協議を重ねて慎重に検討してきたところです。そしてこのたび、市では、新市立病院建設予定地を変更する方針を決定しました。そこで、市が決定した内容や建設を目指す新病院の展望などについてお知らせします。

新市立病院の建設地

平成22年1月、市では、新市立病院の建設地を「現小樽病院敷地と量徳小学校敷地を合わせた場所」に変更することとしました。建設予定地を変更した理由については、下の囲みをご覧ください。

先の「再編ネットワーク化協議会」からの最終報告にもあるとおり、地域医療を守るためには、市立病院が中心となり、医療機関と連携を図っていくことが不可欠です。高齢化が進む小樽市の将来にとって、この場所に新病院を建設することが望ましいと判断しました。

方針決定までの動き

平成15年の時点で、建設候補地には「現小樽病院と量徳小学校の敷地」、「築港地区」の2カ所を選定していました。当時、量徳小学校は小学校適正配置実施計画案の対象校となり、地域説明会が行われていました。しかし、計画案に対する理解の広がり十分で

建設予定地変更の主な理由

- この土地は市の中心部に位置する市有地であり、交通の利便性が良いなど立地条件に優れている。
- 他の医療機関との連携の重要性と、この土地の病院敷地としての優位性が増しているとともに、市内の医療関係者からも、現在地周辺が建設地として最適であるとの意見や提言がなされている。
- 現在の小樽病院周辺での建設を求める意見が、市内各地域での懇談会などで多く寄せられている。



なかつたことなどから、教育委員会が計画案を取り下げ。その結果、市では、現小樽病院と量徳小学校の敷地での建設を断念し、建設地を築港地区として計画を進め、19年3月には基本設計に着手しました。

しかし、病院事業を取り巻く状況が大きく変化。基本設計の一時中断や用地購入の延期を余儀なくされ、今後の病院収支や国の支援策などの動向を見極めて計画を再開することとしました。

その後は「小樽市立病院改革プラン」を策定するとともに、「再編ネットワーク化協議会」からの最終報告、市民の皆さんや関係者からの意見

内の中核都市としての役割を果たすため、一次・二次医療を市内の医療機関で完結できる体制を維持していきます。

また、市内で対応できない三次医療、高度先進医療については、医療資源の豊富な札幌圏の医療機関との連携を強

め、さらに高度な医療を提供できる体制づくりに努めます。

建設に向けた今後の動き
新病院の建設については、中断している基本設計の再開、実施設計、建設工事と、開院

まで5年程度かかる見込みです。具体的なスケジュールや詳細が決まり次第、本誌やホームページなどでお知らせしていきます。

◆お問い合わせは病院局経営管理部 ☎1211 内線385、☎6424へどうぞ。

理解する「統合新築に当たっては現在地と量徳小学校敷地に建設してほしい」という意見も出されました。

新市立病院の規模・機能

新市立病院の規模や機能については、少子高齢化や人口の推移、医療環境の変化など将来を見据え、地域の医療資源を有効に活用することを念頭に置いて決定します（概要については、下の囲みを参照してください）。

今後、地域の医療機関などとの連携や役割分担を進めるとともに、後志二次医療圏

統合新築のイメージ

小樽市立脳・循環器・こころの医療センター

《 222床 》

- 一般病床 120床
- 精神病床 100床
- 感染症病床 2床
- 脳疾患、循環器疾患、精神疾患の専門病院
- 救急（脳疾患、循環器疾患、精神疾患）の24時間体制

市立小樽病院

《 223床 》

- 一般病床 208床
- 結核病床 15床
- 他の病院にはない診療科
- オープン病床
- がんの放射線治療
- 災害拠点病院
- 結核病床（現在休止中）

新市立病院

- 一般病床、精神病床、結核病床、感染症病床を合わせ、400床程度に縮小する方向で検討中
- 両病院の統合により診療機能が集約され、患者の利便性が向上するとともに、高度で幅広い急性期医療について、より迅速な対応が可能

診療の三つの柱

がん診療

後志管内唯一の放射線治療を実施
手術、放射線、薬剤それぞれの療法に対応できる、緩和医療も充実した地域がん診療連携拠点病院を目指し、がん診療の中心的な役割を担っていきます。

脳・神経疾患診療

早期の治療が必要な疾患に対応
従来の診療とともに内科と連携し、高血圧や高脂血症、糖尿病の治療を通して脳卒中の予防に取り組むほか、脳ドックを通して脳卒中や脳腫瘍の早期発見、早期治療に努めます。

心・血管疾患診療

緊急手術が必要な疾患に対応
心臓血管外科と循環器科が連携して心臓血管の診療を行い、今後は心臓ドックや血管ドックを通して心臓血管疾患の早期発見、早期治療に努めます。

二つの特性

- 他の医療機関で担うことのできない疾患の診療（専門外来や入院治療など）
- 地域医療連携センター機能（地域医療連携の調整や医師教育支援の取り組み）